

令和5年4月号

リハビリニュース

令和5年4月1日発行

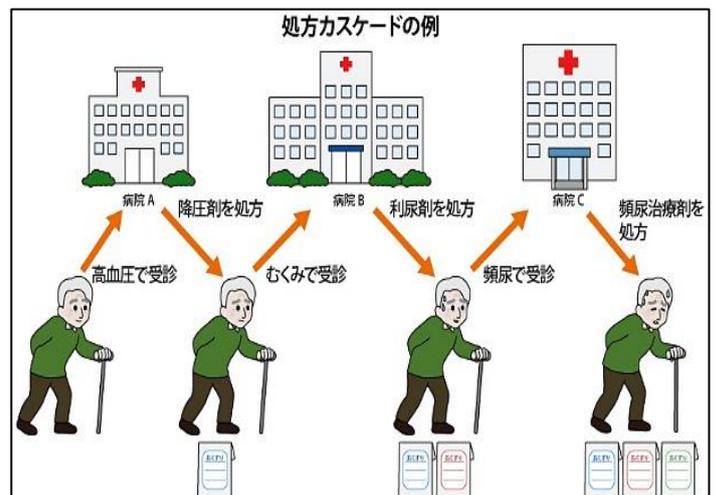
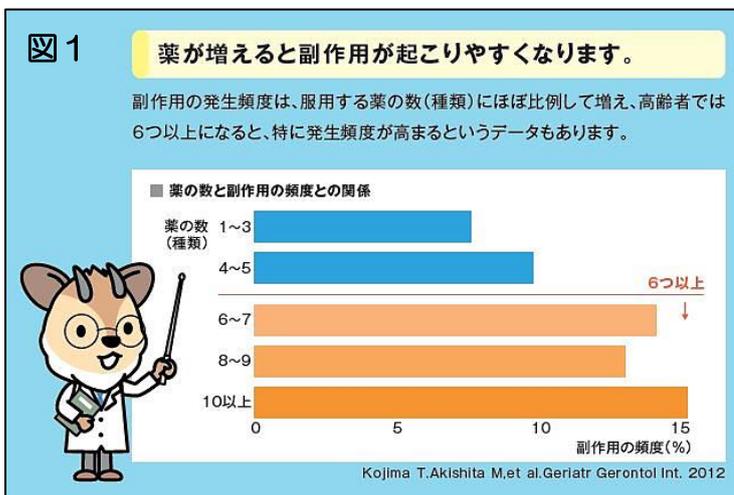
発行者 機能回復訓練部
マネージャー 井上友太

多剤併用には注意が必要！？

高齢になると持病をいくつも抱えて複数の薬を服用することが珍しくありません。しかし、加齢に伴い腎臓や肝臓の機能が低下した状態では、服薬が増えるほど副作用も現れやすくなります。ふらつきや転倒、せん妄、めまい、歩行障害など、症状も多岐にわたるため注意が必要です。

75歳以上は6種類以上の服用に要注意

東大大学院医学系研究科の教授らは、薬の数（種類）と副作用の頻度を調査したところ、6種類以上の服用では、副作用の頻度が10%を上回っていました（図1）。



また、薬の副作用を新たな症状と勘違いし、さらに別の薬を処方してしまうことが繰り返されて（処方カスケード）、最終的に重篤な状態に陥ってしまう危険性もあります（図2）。

多剤併用を避けるには??

**かかりつけ医を
極力減らす**

例えば認知症と不眠症、高血圧症など内科系の疾患がある場合、認知症の医師に一本化して不眠症と高血圧を診てもらうこともできます。

**お薬手帳を
1冊にまとめる**

複数のお薬手帳をお持ちの場合は、薬の重複を防ぐためにも極力1冊にまとめましょう。

まずは身近にいるご家族が服薬に関心を持つことが重要です。高齢家族が誤った内服や飲み忘れをしていないか確認し、年に1度はかかりつけ医や薬剤師に確認してもらうことも対策の1つ。

※処方薬は自己判断で減らしたり中止せず、必ず医師に相談しましょう！

編集後記

次回は7月頃に更新予定です。内容は楽しみに！